ふらっと中山道　　2006.1.11

中山道『御嶽宿』を歩く

昨年末から計画したものの雪のため実現できなかった御嵩町へ、1 月 11 日友と出かけた。御嶽宿と中山道の史跡を巡るウォーキングである。

1 時間ほどで御嵩町へ

いつものように 8.30 に出発して知多半島道路へ入る。大府から湾岸にのり東海環状道路をすいすい走る。鞍が池 PA を過ぎると辺りの山々がうっすらと白く見える。北上するにつれ山は白く、道の斜面に雪が残っている。この分だと中山道の山道は雪が残り、歩くのが大変かもとちょっと気になる。1 時間ちょっとで可児御嵩 IC を出る、ETC のおかげでインターの出入りはとてもスムースだ。

まずは「みたけ館」をめざして街の中心部へ向かう、国道 21 号を走ると案内看板があり右折する。と、まもなく願興寺がありこの交差点を左折するとすぐに「みたけ館」がある。

1F が図書館で 2F が郷土館の立派な建物だ、維持を考えると賢明な施策だと思う。早速見学しょうとしたのだが、開館は 10.00 からでまだ 10 分ほど前だった。すると一人のおばちゃんが、隣の商家竹屋はごらんになれますよと声を掛けてくれた。そこで隣の商家竹屋を先に見学することにした。

どっしりと構える商家竹屋

御嶽宿は江戸より 49 番目の宿場で、540m の街並みのうちで名残のあるのは願興寺の古い伽藍と、本陣近くの格子戸の家並みその北の銀杏の大木などである。願興寺門前の枡形は拡幅工事で削られて今はない。また、本陣前辺りの数軒の家には「かくれ場」と称して隣の家との軒並みが 60cm 程食い違いをもたせた造りが残っている。この宿場には 25 の旅籠と 2 軒の商家が、ほかには豆腐屋が 2 軒,髪結いが一軒に質屋が 1 軒あつた。本陣の隣にあったのが竹屋でこの家は明治１０年頃の建築といわれ、往時の風情を残す立派な建物である。

商家竹屋

絵手紙などの展示

土間をはさんで左右に、奥に向かって部屋が並ぶ造りは商家のもので一般の住宅とは違う。中に入ると絵手紙などの展示もされて、お客さんを楽しませる工夫が感じられた。色とりどりの展示物は辺りを明るくし、楽しい雰囲気にしてくれる。同じように明るくしていたのは、二つ目の部屋中の間には明

り取りのトップライトがあるのだ。これにはびっくり、今ならプラスチックで蓋をするが昔はどんな材料を使ったのだろう??

御嵩町と中山道みたけ館

御嵩の町は産業廃棄物にかかわる、さまざまなニュースで知られるところとなった。当時の岐阜県知事の、御嵩町にたいする言動は理解できなかったのを覚えている。ましてや町長が暴漢に襲われ、いまだに事件が解決していないのは解せない。あんな小さな町を巡るできごとが、ほんとに解決できないのだろうか??

そんな御嵩町だがその歴史がひと目で分かるのがここみたけ館だ。天保１３年の御嶽宿の家並み模型や、隣の伏見宿に珍獣ラクダが逗留したこと、さらに禁断の信仰「キリシタン」を信じた人々がいたことなどが分かる。そして近代日本の足場を築いた明治には産業エネルギーとして亜炭の産出で名をはせた。そんな亜炭採掘坑内の模型が展示されている。

みたけ館

みたけ館の隣　御嶽宿本陣の門

中山道は雪の中だった

謡坂御殿場近くまでタクシーで移動して、そこから中山道を御嵩の町に向かって歩くことに。御嵩駅前のタクシー乗り場へ行くと、ちょうど一台しかないタクシーがおばあちゃんを乗せて走り出していくところだった。やむを

得ず待っているとタクシーはすぐ戻ってきた。運転手さんに中山道のどの辺りまで行けるか聞いてみると、やはり朝は道路の凍結で走れなかったが、唄清水の辺りまで行けるという。時間は 11.00 を過ぎていたので、弁当を仕入れる所へ寄って欲しいと言うと途中にコンビニがあるというので乗り込んだ。町の外れのコンビニで助六と鳥ご飯のおにぎり、それにお茶を買ってスタートだ。

中山道は車の通行禁止区域があり、２１号線の分岐点からではなく途中から中山道に入る。するとあちこちに雪が残っている、日陰でカーブになっている所は雪が凍っているようだ。マイカーを置いてきたのは正解だったが、歩くコースは大丈夫かな??　とちょっと不安になる。要所要所で説明してくれ見学ポイントはよく分かった。そして雪があちこちに残る唄清水に到着した。ここでタクシーを降りて、展望台のある謡坂御殿場あとまで雪の残る坂道を登って行く。

御殿場とは

謡坂御殿場は諸之木峠にある、この御殿場というのは昔お偉いさんが宿泊した所のことである。この謡坂御殿場は、江戸時代末期に皇女和宮が輿し入れの際、休憩所として御殿を建てた跡地と伝えられている。峠の見晴台には東屋が建てられており、食事をするにはうってつけの場所になっている。案内では御嶽山、恵那山が見えるとしてあったがあいにく雲があり見ることはできなかった。でも３８０円、２８０円(助六、おにぎり)の食事はとても旨かった。

謡坂石畳

峠を下り御嵩に向かって中山道を歩くと、タクシーを降りた唄清水と一呑の清水が道端にある。街道を行き交う旅人の喉を潤した清水で、皇女和宮もここの水で野点をしたという。岐阜県の名水に指定されている、でも飲まないでくださいの看板が立っている。それでも名水??

そしてまもなく石畳が続く謡坂だ、でも落ち葉が一杯積もって石が見えない程だ。もちろん修復されているが、昔の人々がこうした道を歩いて旅をしたことを考えると感動を覚える。

落ち葉で石畳も見えないほど

七御前遺跡(マリアの里)

　石畳を下っていくと枝道がありマリアの里の案内がでてくる、林を抜けて畑のあぜ道を行くとまだたくさんの雪が積もっていた。まるで北海道へでも来たような感じだ。まもなくさきほどタクシーで走った道へ出ると、そこに聖母マリア像が建立されている。これは農道の拡幅工事の際に、墓地の一角より隠れキリシタンにまつわる遺物が発見された。これを契機に近在各所からも発見が相次ぎ、このマリア像が建立されたという。みたけ館には十字架を彫った石など多くの品が展示されている。

耳神社

石畳が終って少し歩くと道路沿いの崖に建立された珍しい耳神社がある。耳の病に霊験ありと伝えられる小さな社である。願いがかなったときにお礼にお供えした、年齢の数のキリで編んだスダレが絶えたことがないという。お礼の品がなぜキリなのかは定かではないが、耳が聞こえないのは何かが詰まっていて聞こえないと考えられたのではと思う。

マリア像の前で

雪の残る中山道

牛の鼻欠け坂

耳神社を過ぎると中山道は田んぼ道へ入っていく、しかし要所要所には案内の看板があり迷うことはない。よく整備されている。そんな田舎道を歩いて行くのはとても気持ちがいいものだ、途中には大きな柿の木が実をたわわにつけたままで、干し柿になる寸前の状態になっていた。一ついただいて食べてみると甘くて旨かった、でも最後に少し渋みが口に残った。間違いなく渋柿である、そのため誰も取らないのかな? まもなく道は林へ入り登りになる、するとそこから急な下り坂がくねくねと続く。岩盤を削った急な曲がり坂で、牛や馬の鼻が擦れて欠けるほど難儀したといわれる。われわれは下り坂なのでそれほど苦にならなかったが、確かにきつい坂道である。

和泉式部廟所

牛の鼻欠け坂を下り畑の続く道を進むと家並みが現われてくる。なかにはすばらしい豪邸も目に付く。程なくして国道２１号に突き当たる、そこに和泉式部の廟所が畑の中に建っている。

和泉式部の廟所

平安時代の女流文学者和泉式部は心の趣くままに旅をして、御嵩付近で病に倒れ湯治していたが、この地で没したと伝えられているのだ。
「ひとりさへ渡れば沈むうき橋に　あとなる人はしばしとどまれ」の歌が刻まれている。

このあと町の中心部に向かって、みたけ館の駐車場まで歩いた。ちょっと疲れたのでいつものように喫茶店を探しながら歩くも、床屋さんは４軒もあったが喫茶店は見当たらなかった。やはり田舎である、お客さんがないのだろう。しかし今回もいろいろな発見があり、雪の多いのにはびっくりしたが寒さはそれほどでもなく、とても楽しい 17,800 歩だった。